

## IAUD Newsletter vol.7 第3号 (2014年7月号) 目次

1. 「第5回国際UD会議 2014in 福島&東京」加藤実行委員長からのメッセージ . . . . . 1
2. メディアのUDPJ フィールドワーク実施報告 . . . . . 4
3. ロンドン大学から UD 調査のため IAUD と会員企業を訪問 . . . . . 10
4. 第6回 UD 検定・初級 講習会&検定試験実施のご案内 . . . . . 11
5. 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in 東京」参加者募集中 . . . . . 11
6. IAUD 8月の行事予定 . . . . . 12



### 「第5回国際UD会議 2014in 福島&東京」開催に向けて 加藤公敬実行委員長からのメッセージ

11月9日(日)から13日(木)まで、「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」が開催されます。横浜、京都、浜松、福岡に続く5回目となる今回は、初めて「福島&東京」での2地域での開催になります。

現在、実行委員会を中心に着々と具体的なプログラムや企画内容などの準備が進められています。

今号のNewsletterでは、加藤公敬実行委員長に開催の意義や会議の特徴、目指すところなどについて述べていただきます。



加藤実行委員長  
(2013年度成果報告会にて)

### UDに期待されていること

社会環境の変化やこれからの世の中の変化を見た時に、日本が直面している様々な課題の中で、UDに関係するであろう項目を以下のように整理してみました。

- ・高齢化、少子化、人口減、地方都市崩壊などの人口構成に起因する社会環境
- ・女性の活躍や外国人の採用などの労働環境
- ・貧困や教育などの格差が顕在化するなどのグローバル環境
- ・日本のものづくりの停滞感／再構築
- ・日本の国土の再設計／再構築(都市、施設、ITなどのインフラ基盤)
- ・途半ばの震災復興、地域再生、エネルギー創出(脱原子力、再生可能エネルギー)
- ・2020年のオリンピック、パラリンピックの開催

以上の様に様々なテーマが顕在化しています。大きな方向性として、「ダイヴァーシティ」「グローバル」「共存」「防災」「安心安全」「エコ」「イノベーション」などがキーワードであり、それをUDで解決／提案していくという文脈は、IAUD会員の皆様の基本的な思いであることは議論するまでもないことです。

そのような視点から、今回の国際会議の企画構成は、メインテーマを「UDのグローバル展開」

とし、サブテーマを「東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて」としました。

さらに、3つのUDの領域、「グローバル都市のためのUD」「産業振興におけるUD」「非常時のUD」を明示しています。

IAUDでは、オリンピック、パラリンピックが大木の枝であれば日本全体は根であり幹であると考えています。グローバルを視野に入れた日本の全体像を明確化することこそ、UDの領域でありデザイナーの存在価値であると確信しています。

## オリンピック開催の先にある未来に目を向けること

さらに、今回のテーマに込めた重要な議論すべき論点は、将来に向けて顕在化している(いくであろう)諸課題へ視点を向けることです。2020年のオリンピック・パラリンピックは一つの重要なテーマであり、強力な推進エンジンになりますが、オリンピック・パラリンピックの開催がターゲットではなく、その先の未来に目を向けることが重要になります。1964年開催の第8回夏季東京オリンピックに向けての突貫工事の今日見られる結果への反省も踏まえて、2020年開催後のフューチャーをしっかりと描くことが肝要だと思います。

その基本的なアプローチはバックキャストイングにより未来の姿を見える化することであり、デザイン思考で多様な人たちの視点をいれたプロセスと共創の場が必要です。それは未来に向けた「社会課題の解決と価値の追求」でもあります。

## 研究部会の活動が大きな役割

これから始まる展開は長中期戦との認識があります。今回、プログラムに盛り込まれている「グループ別ワークショップ」は、IAUD研究部会の主導のもと各テーマで実施し、2020年の世界を見据えた現状の課題や2020年以降の取り組むべき方向性を示すことが目的となっています。

住空間、移動空間、労働環境、余暇のUD、衣のUD、メディアのUD、標準化研究等のPJ/WGによりフィールドサーヴェイを中心にワークショップを展開し、結果を報告するもので、多様な人が参加するこのワークショップが、国際会議内での重要なコンテンツ(プログラム)となります。

そういう意味で、「研究部会」の活動が大きな役割と可能性を持っています。今回のワークショップ実施意義は以下の様に考えています。

- ・「東京+福島(復興)」を連携した、「新しい都市と地方／多様な人のあり方」の提案と具体化。IAUD発信の「2020年のUD」を構想、具現化する。
- ・パラリンピック、デフリンピックの社会的関心、行動を生む。
- ・ステークホルダー(海外からの旅行者、地域にいる日本人／外国人、出場者、サポーター、スタッフ、ヴォランティア、高齢者、障害者、子供たち、エンジニア、企業関係者などの多様な人々)とその活動／コミュニケーションのあるべき姿をサポートする方法を提案。
- ・国際会議中のワークショップで、視点を抽出し方向性をプロトタイプする。政府や産業界に発信し、2020年に向けた具体化の動きをキックする。

研究部会においては2020年までの4回の国際会議(2014年、2016年、2018年、2020年開催予定)の対応とその中間活動年度の部会活動が連携していくことを期待しています。

2021年は東日本大震災後10年経過の年であり、さらにはIAUD設立20周年である2023年に向けたロードマップでもあります。国際会議においては、今回の国際会議は2020年までの

4 回の国際会議のスタートの年となります。

相当タフな活動の継続性が期待されます。研究成果に大いに期待したいところです。

### ワークショップは共創プロセス

国際会議を共創の場にしたいと思っています。デザイン思考実践を愚直に進めていき、いろいろな視点で課題を顕在化し、解決策を明確化(プロトタイピング)するのが狙いです。

ワークショップはその実現の場であり、徹底的なデザイン思考によるフューチャー思考の共創プロセスであると思っています。

国際会議はもうすぐです。皆様のご支援をいただいて立派な会議にしたいと思っています。国際会議の実行委員長として微力ながら貢献したいとの決意です。目的を明確にして、みなさんの知恵を集合知として、着実な一歩にしたいと思っています。(了)



### お得な事前登録を受付中！

「第 5 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」開催のご案内

11 月 9 日(日)から 13 日(木)に開催する「第 5 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」の参加登録を開始しました。

福島県で 11 月 9 日(日)と 10 日(月)に開催するプレカンファレンスでは、「UD のグローバル展開～復興と再生のユニヴァーサルデザイン～」をテーマに、被災地の視察や既存の地場産業の現状や問題点を調査研究するフィールドサーヴェイや、市民にも親しみやすい公開ワークショップなどを実施します。

また、11 月 11 日(火)から 13 日(木)まで、東京国際交流館(東京・台場)で開催する本会議では、「UD のグローバル展開～東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて～」をテーマに、論文発表セッションや展示会、「IAUD アワード 2014」表彰式のほか、今回は IAUD 研究部会主導での地域参加型グループ別ワークショップや市民向け公開セミナーも実施します。

お得な事前登録の締め切りは 10 月 10 日(金)です。

詳細内容は下記公式サイトをご覧ください↓

<http://www.ud-2014.net/>



第 4 回国際 UD 会議 開会式

## “施設案内サイン”と“駅構内案内サイン”の気づき発見

活動報告:メディアの UDPJ 研究テーマ「UD サイン(仮)」に関するフィールドワーク実施

メディアの UD プロジェクトは、メディアにおける UD の課題を関係機関に発信し、情報保障への社会的配慮を促しています。

今号の Newsletter では、メディアの UD プロジェクトのこれまでの活動経緯、および 7 月 3 日(木)に羽田空港で実施した本年度の研究テーマ「UD サイン(仮)」の研究課題を絞り込む「気づき」発見のフィールドワークについてお伝えします。



フィールドワークでの調査風景

### 色の UD を広げる 2 つの研究テーマと成果

メディアの UD プロジェクトは 2008 年度から 2012 年度まで、「メディアにおける色」をテーマに活動してきました。

メディアにおいて色は欠かせない表現であるにも関わらず、見え方はすべての人が同じではありません。日本全体で 320 万人以上いるといわれている色弱者(※1)に対して配慮が必要と考えます。色に関して日々起こっている不便や危険という現状を踏まえ、色の UD を広げる以下の 2 つの研究テーマに取り組み、成果として発表しています。

※1:色覚に関する表現に関して、メディアの UD プロジェクトでは、NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構が提唱する呼称を用いています

#### ① 「多くの人に伝わるイメージ配色の研究」として、カラーUD 配色イメージ・スケール

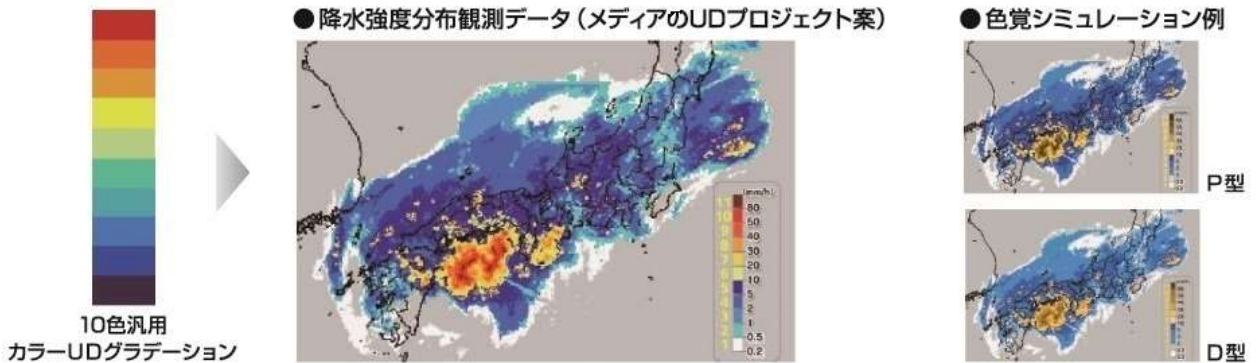


日本カラーデザイン研究所と IAUD メディアの UD プロジェクトの共同研究成果

カラーUD 配色イメージ・スケール<第一版>

## ② 「多くの人に伝わるグラデーションの研究」として、カラーUD グラデーション

「気象情報の配色に関する設定指針（気象庁）」策定<sup>※2</sup>に協力



※2 日本気象協会、東京大学分子細胞生物学研究所、カラーユニバーサルデザイン機構との共同チームにより実施

### 「見にくさ」「読みにくさ」が起こらないための提言

2013年度からは色に加え、「文字/書体」を研究テーマとして活動してきました。

きっかけは「UD 書体」です。「UD 書体」は、できるだけ多くの人が「見やすく・読みやすい」を実現するために配慮した書体です。例えば、書体をフレーム枠いっぱい大きくし、フトコロを広くすることで判別性を高めたり、濁点を大きくして区別をつけ易くするなどの特長を持っています。

メディアのUDプロジェクトは、「UD 書体」も含めた書体自体の見やすさ、読みやすさの評価でなく、「見にくさ」「読みにくさ」が起こらないための提言を目指して取り組みました。

2013年度は書体の作り手と使い手の目線として、書体ベンダーとデザイナーへのヒアリングを実施しました。このヒアリングを通じて、主に以下の3つの気づきを私たちは得ることができました。

1. 伝えるメディア、伝えたい意図によって書体は選定します。「UD 書体」を使えば、必ず見やすさが確保されるとは限りません。
2. 「UD 書体」の特長を踏まえて使用することで、視機能に障害・困難を持つ方に対して判別しやすくなります。正しく「UD 書体」を使うことで「読みにくさ、見にくさ」が軽減できる可能性があります。
3. 視認性、判読性の向上は、「UD 書体」の使用と同時に文字サイズ、文字間、行間等が重要となります。

### UD 視点でサインに着目した事例研究及びフィールドワーク実施

本年度は、今まで取り組んできた2つのテーマ「色」、「文字/書体」の要素を多く含む「サイン(看板)」に着目し、UDの視点でサインをとらえ、新たな社会的課題を見つけ出すことに取り組んでいます。

しかし、一概にサインと言っても、宣伝・広告等に使用する看板、道路の標識、鉄道の標識、施設内の案内、デジタルサイネージなど多岐にあります。

そこで、メディアのUDプロジェクトは、取り組む研究対象の絞り込みと、どのような方がサインに対して不自由を感じるかを探るために、7月3日(木)に事例研究とフィールドワークを実施しました。

事例研究として、多様な利用者に配慮された羽田空港国際線旅客ターミナルの見学、フィールドワークは、「羽田空港からIAUD 八丁堀サロンへ移動中のサイン」に着目した気づきの発見を実施しました。

フィールドワークのテーマ選定の理由は、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、外国人をはじめ、障害のある方、高齢の方など多様な来訪者が想定されるからです。

### 他のプロジェクトメンバーも参加

フィールドワークは、メディアのUDプロジェクトのメンバーに加え、移動空間プロジェクトのメンバーや有志を交えた17名の参加でおこないました。

参加者は、羽田空港の国際線旅客ターミナルに集合し、まず東京国際空港ターミナル株式会社(TIAT)様のご好意で、「東京国際空港国際線ターミナルにおけるUDの取り組み」を説明いただきました。



羽田空港での説明会

### 東京国際空港国際線ターミナルにおけるUDの取り組み

TIAT様のUD基本理念は、「多様かつ多くのお客さまが利用する空港ターミナルを快適に利用していただくために、徹底したUDの考え方による計画・整備により、1人でも多くのお客さまが利用しやすいターミナルを実現」との説明を受け、この基本理念に基づく施設整備を見学させていただきました。

見学会を通じ、私たちは羽田空港の国際線旅客ターミナルは、日本と海外を「より速く便利に」「より安心に」「より優しく」結ぶ「快適都市空港」を実現していることが理解できました。

以下に見学のポイント及び気づきを述べます。

#### ① エレベーター

- ・すべてのエレベーターで車いすの利用が可能
- ・エレベーターの扉の幅と内部のカゴ幅が同じであり、スルー型(両側扉)のため、車いすやカートによる乗り降りがスムーズ
- ・エレベーターには音声案内があり、階数や扉の開閉案内の他、非常時にも音声による情報提供を行い、スルー型(両側扉)エレベーターでは、開く扉が明確にわかるよう、片側の扉は男性音声とし、反対側の扉を女性音声とし、エレベーターホールでは、上行きのエレベーターと下行きのエレベーターが到着する時のチャイム音をわかる
- ・操作盤には点字を併記
- ・エレベーター内には、文字による情報提供が可能な液晶モニターを設置(扉の開閉案内の他、非常時には対応状況を伝える情報が表示)
- ・非常時にボタンを押すことで聴覚障害者の存在を外部に知らせることができるよう聴覚ボタンを設置(聴覚ボタンが押されると、係員が筆談用具等を備えて即座に対応、対応状況を液晶モニターへ表示)
- ・周辺デザインとの親和性にも配慮しつつ、弱視者がエレベーターのガラスに当たらないように、ガラスに雨模様を追加



エレベーターの内部(左)と外観(右)

## ② 一般トイレ

- ・個室ブースは、手動車いす使用の人やスーツケースを持った人も利用できるよう、十分なスペースを確保
- ・入り口にて、トイレの位置(男女区別、多機能トイレ)を4ヶ国語の音声案内
- ・耳の不自由なお客様への緊急時の情報提供の手段として、火災報知機や非常放送と連動したフラッシュライトを設置
- ・個室の空き状況が一目見ればわかるドアの配色(使用中はドアが壁と同色になる)
- ・男女トイレに、おむつ交換台と1ヶ所ずつ個室ブース内にベビーチェアと着替え台を設置
- ・多機能トイレが1ヶ所のトイレには、オストメイトの使用の人が利用いただける設備を一般トイレ個室ブースにも設置



4ヶ国語表示(左)と空き状況が一目でわかる扉(右)

## ③ 多機能トイレ

- ・すべてのトイレ設置箇所に1~2ヶ所の多機能トイレを併設
- ・車いす使用の人、ご高齢の人、オストメイト使用の人、乳幼児連れの人、付き添いが必要な人など様々な人にご利用できるトイレ
- ・2ヶ所の多機能トイレを併設している場合は、車いす使用の人の左右使い勝手に配慮し、便座へのアプローチ・跳ね上げ式手すりの位置等が左右異なる機器配置
- ・多機能トイレが1ヶ所の場所では、同一エリア内に跳ね上げ式手すりの位置が左右異なる機器を基本的に交互に配置
- ・おむつ交換台、多目的ベット、着替え台、オストメイト対応洗浄用シャワー・汚物流し、緊急時防災センターへ通報される非常呼出ボタン、フラッシュライトなどを設置



左右対称に用意された多機能トイレ

④ 補助犬トイレ

- ・ターミナル内1階(屋内)に補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)専用のトイレを設置



補助犬トイレの入り口(左)と内部(右)

⑤ 手で見るフロアマップ・点字ガイドブック

- ・案内カウンターには、目の不自由なお客さま用のパンフレットとして「手で見るフロアマップ」および「点字パンフレット」を用意



手で見るフロアマップ 表面(左)と裏面(右)

⑥ 点字表示板

- ・階段やエスカレーター及びスロープの手すりには、段数や行先のフロア施設がわかるような点字表示板を設備





点字表示板写真

⑦ 水飲み器・PC・自動販売機・公衆電話コーナー

- ・車いす使用のお客様やお子さまにもお使いいただけるように、高さに配慮
- ・公衆電話には、点字や音量調節機能が装備(一部)

羽田空港～都心 サインの課題発見

その後のフィールドワークでは、「京浜急行電鉄」と「東京モノレール」の交通手段を利用する2つのグループに分かれて、羽田空港から都心へ向うルートで IAUD 八丁堀サロンを目指し、移動中の駅案内、電車内案内などを中心にサインの気づきを各自が写真を撮りながら課題発見をおこないました。

色弱者や一般の人と見る位置(視点)が異なる肢体不自由、白内障・緑内障など高齢者、視覚障害者(全盲、視野欠損)、聴覚障害者、外国人、地方から来られた人、子どもなどの当事者を想定した視点で、目的地に着くためのサインや支援を要請するためのサイン(緊急、インフォメーション等)など、気になったサインの課題をメモしながら観察し、多くの課題を発見しました。

例えば、案内板の下地の色と文字の色の組合せ、色により識別させている情報の色の選択、雑音の中の音声案内、遠近を考慮していない文字サイズ、情報の詰め込み過ぎで情報保障ができていないなどの問題に対する気づきがありました。

気づきを分析して社会に提言へ

各自が発見した気づきは、手作りの「問題点抽出用シート」(右図)に記入して、次回のメディアの UD プロジェクト定例会に持ち寄り、気づきの分析を行い、2014年度のテーマ「UD サイン」の研究テーマを決定し、社会への提言へつなげて行きたいと考えています。

最後に、「東京国際空港国際線ターミナルにおける UD の取り組み」の説明、案内を行っていただいた東京国際空港ターミナル株式会社様に改めて、お礼を申し上げます。(了)



問題点抽出用シート

## ロンドン大学から UD 調査のため IAUD と会員企業を訪問

ロンドン大学ゴールドスミス校の社会学教授 Rob Imrie 氏と研究員 Kim Kullman 氏が日本における UD の実状調査のため来日し、IAUD と会員企業との面談が行われました。

両氏は欧州研究会議 (ERC) の助成金プロジェクト「Universalism, universal design and equitable access to the designed environment」(公式サイト:<http://universalisingdesign.info/>) に取り組んでおり、日本では UD をどのように展開しているのか、国ごとに違いはあるのか等について調査するため、IAUD に対して調査協力の依頼がありました。

IAUD は世界に向けて日本の UD の実状を積極的に情報発信することが重要であると考え、会員企業のご協力を得ながら対応致しました。

両氏は UD アプローチについて IAUD と面談したほか、また各企業における UD の実践状況を調査するために会員企業の (株)岡村製作所、(株)モリサワ、日産自動車(株)とも面談を実施しました。

### IAUD の UD 普及活動



面談する Imrie 氏(左)と川原専務理事

IAUD が UD をどのように普及しているのかを調査するために、Imrie 氏が 7 月 15 日(火)に IAUD サロンを訪問され、川原啓嗣専務理事と面談しました。

まずは IAUD の設立した経緯として、2002 年に開催した横浜での国際 UD 会議の成功を受け、UD を継続的に整備し育成していく組織を作るために、故寛仁親王殿下を総裁に 2003 年 11 月に発足したことなどの説明がありました。

また、IAUD の運営体制及び主な会員を紹介すると、Imrie 氏は政府がほとんど運営に関わっていないこと、その一方で多くの企業が活動に積極的であることに非常に感心していました。

さらに、UD の普及と実現のための活動として、これまでの国際会議や研究部会の取り組みについて説明しました。特に、Imrie 氏は食の UDPJ が取り組んだ「やけどのピクトグラム」に興味を持たれたようでした。

### 会員企業の UD への取り組み

会員企業への面談のひとつとして、Kullman 氏が 7 月 15 日(火)に(株)岡村製作所のガーデンコートショールーム(東京・紀尾井町)を訪問されました。

当日はビデオによる会社概況の説明がなされた後、デザイナーも同席しての面談が開始されました。実際の製品を前にして、デザイン作業の中でどのように UD に取り組んでいるのか、また UD についての考え方や社内でのどのように UD を浸透させたのかなどについて、質疑応答が行われました。

その後、ショールームを見学しながら実際の製品において UD を実践しているポイントなどの説明がありました。(了)



岡村製作所での面談



## オリンピック・パラリンピックのヴォランティア活動にも役立つ知識 第6回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験実施のご案内

これまで多くの方に受験いただいている「UD 検定・初級講習会 & 検定試験」を、9月11日(木)に芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で実施します。

6回目となる今回も、UDに関する基礎的知識を学習する2時間の講習会(講師:古瀬 敏静岡文化芸術大学名誉教授)と1時間のUD 検定・初級試験のセット形式です。その場で学習できるので、事前の準備が不要です。

商品やサービスを正しく選択できる能力を学べるほか、地域社会や特定のニーズを抱えた人に貢献する知識を得られるなど、オリンピック・パラリンピックのヴォランティア活動にも役立ちます。

なお、合格者には「UD 検定・初級 認定証」が発行されます。UDに興味のある方、お気軽にご参加ください。

申込み方法や詳細はこちらをご覧ください。↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1407/25-200000.php>



第5回 UD 検定の様子(東京・芝)

---

### テーマは「おもてなしー地域と未来と人を繋ぐー」

#### 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in 東京」参加者募集中

ワークショップ委員会は、「48時間デザインマラソン in 東京」を9月9日(火)から11日(木)に芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で実施します。

今回は芝浦工業大学のご協力及び東京都のご後援のもと、「おもてなしー地域と未来と人を繋ぐー」をテーマに、2020年に東京で開催されるオリンピック、パラリンピックを見据えながら日本文化の底流に潜むUDの考え方を今一度考察し、障害のあるユーザーと一緒に調査検証を行いながらデザイン提案をします。

現在、国内外で活躍されているデザイナー、エンジニア、マーケッター、プランナー、研究者などの参加者を募集中です。

8月20日(水)まで受け付け中ですので、皆様の応募をお待ちしております。

詳細は以下のサイトをご覧ください。↓

<http://www.iaud.net/event/archives/1407/14-111111.php>



神戸で実施した前回の様子



## IAUD 8月の予定

7月31日現在

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5 16:30～ 協同事業検討委員会@IAUD サロン	6 14:00～ 労働環境 PJ @IAUD サロン	7 15:00～ メディア UDPJ @IAUD サロン	8 15:00～ 実行委員会 @IAUD サロン	9	10
11	12	13	14	15	16	17
←事務局夏季休暇→						
18	19 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	20 12:30～ 移動空間 PJ @IAUD サロン	21	22 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	23	24
25	26	27	28	29 13:00～ 標準化研究 WG @東京国際交流館、パナソニックセンター東京	30	31

事務局と IAUD サロンは、以下のスケジュールで夏季休業となります。

【事務局】8月13日(水)～8月15日(金)

【IAUD サロン】8月11日(月)～8月15日(金)

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2014 年 8 月末発行予定

特集：手話用語 SWG 明晴学園の見学及び座談会のまとめ

**無断転載禁止**

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : [salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)